



ゆりこの市議会だより

発行／後藤ゆり子事務所
〒020-0807 盛岡市加賀野1丁目17-3
電話／019-654-2220 FAX／019-654-2231
携帯／090-2366-1036

第55号
2023.春

盛岡市議会議員・後藤百合子だより

ゆりこの盛岡市議会 Q&A

2022(令和4年)
9月7日
一般質問(一括)

◇DXデジタルトランスフォーメーションによる市政振興

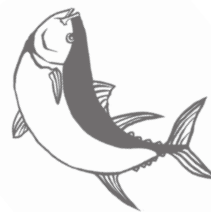
Q デジタル技術の市民対応、高齢者への方策は。

A 盛岡市デジタル化によるまちづくり推進戦略により、とりくむ。(くわしくは、ゆりこの市議会だより第54号、突撃レポートを参照ください)

◇中央卸売市場の振興と魚類の養殖

Q 本県の漁獲高は激減、各漁協は壊滅的でも、震災対応で一

息か。この後は養殖漁業に期待すべき。卸売市場をもつ盛岡市は、漁業の振興策に三陸沿岸と広域連携を。



◇女性生存と尊厳をたかめる

Q ①予期せぬ妊娠の相談窓口(にんしんSOS)、善友乳児院が取り組む。連携と周知が必要では。

②飯岡地区公民館の「赤ちゃんヨガ教室」すぐれて、同様の取り組みをすすめるべき。

A ①民間との連携は大変重要。性教育と、授業以外の相談体制の充実化をはかる。②産後1年未満の母子のスキンシップ事業

を公民館、児童センター等で実施。



◇生活保護費の不正

Q 県警による不正受給者の逮捕無ければ、被害額は4,000万円超か。対する市長、保健福祉部長の謝罪あるべきでは。

A 第3者委員会の検証をいただき、職員意識改革に取り組むことが責務である。

◇小中学生の不登校対策

Q 年々さいさい、へりゆく児童数、相反してふえゆく不登校児童、生徒。彼らに学びの場、フリースクール功績は大。NPO法人盛岡ユースセンター、文部大臣賞受賞、市からの支援あるべき

では。
A 同センター長には、本市の不登校対策委員長を委託し、連携を強化。今後もフリースクールへの理解をふかめたい。



◇下水道料金の改定

Q 今定例会に先んじての全員協議会にて提案があった、料金改定。2021年度(令和3年度)予定損益計算書では、当年度純利益2億7,079万円ながら、「長期前受戻入金」を差し引けば、実質は6億6,027万円の赤字決算。下水道は、ほんらい不採算の社会インフラ。老朽化対策も急がれ、国が支援をとめるなら、料金改定でインフラをまもるこ

と、やむなしか。

A 過去3年間の実績は、令和1年度決算、△1億9、700万円と赤字、2年度、△5億1、400万円と赤字、3年度△5億4、000万円と赤字、使用料の改定が明確に。また、昭和28年に着手の下水道事業、管路、ポンプ施設とも老朽化対策がきつさんの課題。



2022(令和4年)
12月12日
一般質問(一括)

◆自殺予防の対策

Q ①市の予防対策と今後のビジョンは。岩手県の自殺死亡率、2008年度(平成20年度)、全国ワースト1で、万年ワースト4が、2021年度(令和3年度)全国26番目の162人。盛岡市は何人か。岩手医大の功績大なる「久慈モデル」、総合病院で神経科を有する、市立病院の役割も大きい。

②高齢者の孤立、孤独対策はどうか。「認定NPO心の架け橋いわて」(通称「こころがけ」)の活躍はめざましい。本市は。

A ①令和3年度、本市の自殺者36人、

前年比15人減少。市立病院の「久慈モデル」の役割は、県央保険所はじめ各機関と連携し自殺対策のネットワーク構築等にとりくむ。情報共有と人材育成も。今後のビジョンは、「働き盛り対策」「若年層対策」の強化等を。

②本市は盛岡悠々大学等の介護予防事業、見守り事業を。NPO法人等との連携も。

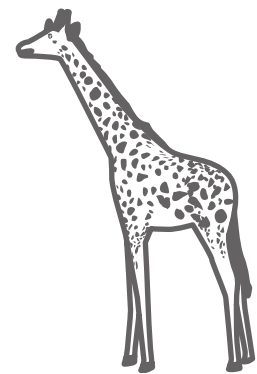


◆岩山公園整備の進ちょく

Q かつて盛況を誇った面影を失った岩山。新庄林野、啄木望郷の丘、花牧園、鹿島展望台、岩山観光開発公社等のチエ、汗、資金は水泡か。動物公園、パークランド、展望台、3者連携のあらたな発展をのぞむが、市長の所見は。

A 令和5年春の、動物公園のリニューアル

アルオープンにより、集客力、民間投資を期待し、岩山エリアの活性化を。



◆新市庁舎整備の重大課題

Q 13候補地の1つ「盛岡駅西エリア」は「盛岡市防災マップ」で一目りようぜん、浸水エリア、浸水深3〜5m、また5〜10m、戦国時代に見立てれば、城の2階まで水攻め状態で、庁舎には不適合。地政学的にも内丸が最適では。

A 駅西について防災の詳細な試算はしていないが、活用可能な市有地が約1万㎡。



◆盛一ノ倉邸の名称

Q 一ノ倉邸は、市民の税金8、847万円(1992、平成4年)で購入した市民の財産。名称を変更し、安部浩(本市出身、東京都知事など歴任)が建設時の名称「吾郷榎荘(あきようばいそつ)」安倍宗任の故事(前九年合戦にやぶれ、捕虜として京に送られたおり、公家から梅の花の名を問われ「わが郷の梅の花とは見たれども、大宮びとはいかにいふらむ」と答えた)による名称に変更すべきでは。「岩手公園」を「盛岡城跡公園」と変更の一例あり。

A 市民に親しまれている名称なので、変更しない。



◆盛岡市の道路元標

Q「道路元標」は旧道路法により全国の市町村に設置し、そこを規準に各地までの距離を測るもの《例：盛岡まで〇キロメートル》。ちなみに、『お江戸日本橋』は日本の道路の起点。盛岡市の元標は市役所の道路向かいの植え込みの中でほこりまみれ。情けない。またこの一角に、国土地理院が設置の、「一等水準点」（標高をさだめるもの）も。ともにミニスポットとして整備しては。

A 設置管理者を確認のうえ、関係機関と相談する。



◆生活保護の不正

Q ①福祉事務所の改善の実態とその効果は。

A ①適用に疑義があれば、国、県に助言をもとめ、回答を共有し、活用、担当者が抱え込まないシステムづくり。令和4年5月、本市独自のマニュアルを作成し、対応力が向上。4年9月、5



Q ②第3者委員会の進ちょく状況と、見とおしは。

Q ②第3者委員会の進ちょく状況と、見とおしは。

◆事務処理ミスの連続

Q 加賀野地区活動センター、好摩地区公民館の工事ミス等、連発だが、なぜか。



A ③令和7年度末を目標の、国がおこなう（自治体情報システムの標準化）にあわせての作業中。より効果的なシステム構築をめざす。

Q ③DX活用の実態は。



A ②委員会は、これまで7回の開催、調査、検証を。関係職員へのアンケートも実施中。

A 共通する主要因は「法令、制度の理解不足」「事業の進ちょく状況の確認不足」「チェック体制の不備」等。全庁での共有、意識不足等も。改善に取り組む。



◆学校教育での和楽器演奏

Q ①小中学校での和楽器の演奏教育の実態は。

A ②小型箏（こと）和音（かずね）は、箏の半分の長さで、扱いやすく、価格も安価。学校教育に適するが、実施の実態は。

A ①小学校は、3年生以上で日本音楽の鑑賞の学習。中学では、さらに長唄、民謡等の歌唱、箏、三味線、尺八など和楽器の演奏を。②和音の導入は、小学

校で11校、中学校では9校。邦楽の学習は、日本文化への愛着と理解を深め、大変に意義がある。



2023(令和5年)
3月定例会
一般質問(項目)

①いわて盛岡ボールパーク展示室と県市の共同事業
②まちづくりのあり方
③生活保護費不正請求事件その誤の進ちょく
④コロナウィルス感染症文化創造事業補助金の活用(能楽)
以上、くわしくは次号(第56号)にて、ご報告いたします。

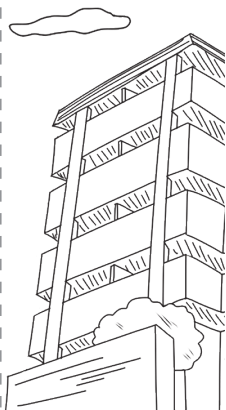
ゆりこの突撃レポート

【その54】



松園住宅団地の再整備はいかに。

盛岡市の戦後の経済成長、かわる住宅地の開発、その最大級「松園ニュータウン」の造成から、いくせいそう、現在と、その後の課題はいかに



少子高齢化、人口減少、空き家の増加等、どう対処するのか、他の団地群も同様の課題をかかえるなか、「松園団地」の再整備はいかにあるべきか。対策について、盛岡市都市整備部都市計画課、齋藤剛課長、同建設部、道路建設課、清水治課長、同環境部、廃棄物対策課、南幅嘉人課長、同市民部、市民協働推進課、西村ふみ代課長にお話をうかがいます。

【松園団地の創生】

□ゆりこ 盛岡市、戦後の経済成長、周辺地域から盛岡市への人口流入、かわる住居地の創出。その最大級が、松園団地。県住宅公社が1969年（昭和44年）東黒

石野、小鳥沢の山林218ha「松園ニュータウン」の造成を計画、1977年、第1次計画を完了、4,490戸、18,000人の新市街地が出現。ついで第2次計画で、小鳥沢の山林83ha、1986年より工事開始、1,700

戸を分譲、この北側に民間業者の造成、1986年には、松園地域全域で7,200世帯、25,000人、との壮大なプランでした。その後の人口動態は、2000年、約20,000人、2020年、16,000人、しかも2040年には12,000人まで減少、その半数は高齢者との予測、これら人口減少の原因をどのように捉えておられますか。

■齋藤課長 人口減少については、全国的な傾向と考えられますが、高齢化については、他のニュータウンと同様、松園団地においても約50年前に同年代世帯の入居が進んだことから、一斉に進行しているものと捉えております。



【もう一つの展開】

□ゆりこ 松園地区の創設から今日にいたる経緯のなかで、特筆すべきは、ごみ処理施設「盛岡市クリーンセンター」の

設置です。この施設が地域のあらたな発展をもたらしました。1998年（平成10年）稼働の同施設、周辺の環境整備、また余熱利用健康増進センター「ゆびあす」の整備についてうかがいます。



■南幅課長 盛岡市クリーンセンターは、門、三ツ割のごみ焼却施設の後継施設として、盛岡地域（都南・玉山地域を除いた地域）の家庭や事業所などから排出された可燃ごみ（一般廃棄物）を焼却処理する施設として整備され、1998年（平成10年）4月から稼働しています。盛岡市クリーンセンターの整備・稼働に当たっては、周辺の町内会や自治会と締結した「覚書」や「公害防止協定」に基づき、環境への配慮や公害防止対策に万全を期すとともに、各種公共施設の整備等を進めてきました。また、盛岡市クリーンセンターのごみ焼却による余熱を

有効に利用し、市民の健康増進や交流の場として役立てていただくことを目的として、2002年(平成14年)に余熱利用健康増進センター「ゆぴあす」を開館しました。

□ゆりこ つぎに、2010年(平成22年)3月、開通をみた、市道北松園四丁目小鳥沢線、北松園中学校の南側を起点に、「ゆぴあす」の駐車場にいたる道路、8年の歳月、約9億6,000万円の事業費によるもの、さらに2010年度いっぱいをかけての、全長では1,255m、総額では約10億7,000万円に上る、「ゆぴあす」を経由し、主要地方道盛岡環状線にいたる道路、それらの実態についてうかがいます。

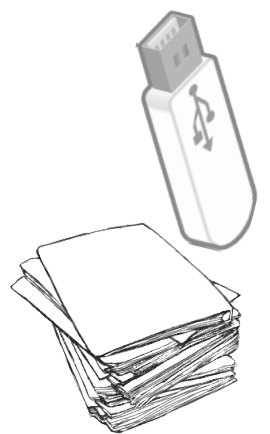
■清水課長 市道北松園四丁目小鳥沢線が開通するまで松園地区から「ゆぴあす」へのアクセスは、国道455号の上米内地区から主要地方道盛岡環状線を経由する経路しかなく、大きく迂回を強いられていた状況であり、地域からもアクセス向上を図る要望が寄せられたことから、市で整備を進めたものです。整備にあ

たっては、ルート選定など地域の皆様のご意見を踏まえて進めるとともに、周辺の山林及び緑地の景観と調和するよう、法面等を工夫しながら整備を行いました。

□ゆりこ これらの整備が地域の発展にもたらした効果、影響を、どのように捉えておられますか。

■南幅課長 レクリエーション型の複合施設(プール、浴場、アリーナなど)である「ゆぴあす」につきましては、開館以来、2022年度(令和4年度)までに延べ470万人を超える方に利用いただいており、多くの方の健康増進や交流の場として地域の発展に寄与しているものと考えております。

■清水課長 市道北松園四丁目小鳥沢線の整備により「ゆぴあす」へのアクセスが向上するとともに、北松園地区及び小鳥沢地区から国道455号への連絡も便利になり、地域住民の利便性が高まったほか、松園地区と上米内地区や周辺地区との交流が促進されるなど、地域の活性化につながる効果があつたと考えております。



「松園リボーン研究会」

□ゆりこ 松園地区の人口減等、起死回生策として、有志による「松園リボーン研究会」が発足、2020年(令和2年)3月、キックオフミーティングを開催、『リボーン松園』その先の未来へ』を旗印に、住民・行政・企業が一体となり再生をめざしてきた経緯。また内閣府の「住宅団地再生に係るハンスオン支援」に盛岡市の応募を要請、支援体制に選定となりました。対する行政の対応とは。また国、県との関わりはいかがなおりますか。

■齋藤課長 市においては、地元の活動に対する支援を始め、国の支援や県の協力を受けるながら、地域と共に地域再生計画を作成し、計画に定められた事業を地域と一体となつて推進する役割があるものと存じております。

□ゆりこ 同研究会2022

年度(令和4年度)の活動は、①先行事業の事業家化計画等の検討、②セミナー開催による、住民意識の啓発、③ミニコミ誌「松園新聞」等による、住民意識の啓発、④盛岡市地域再生協議会への参画です。まず④の実態は、また各事業の成果をどのように捉えておられますか。

■齋藤課長 現在、松園リボーンプロジェクト研究会とともに具体的な取組について検討しているところであり、今後、その関係者等で構成する地域再生協議会を設置して地域再生計画を作成し、国からの認定を受け、具体的な事業化に向けて取り組むことを予定しております。松園リボーンプロジェクト研究会の活動の成果については、住民アンケートやワークショップ等のイベントを通じ、将来の目標と実現に向けた取組の方向が定められております。令和4年度は先行事業として、「松園キャンプ」のイベント開催や、地域ボランティア等による「カフェおれんせ」のオープンなど、これまでの構想が目に見える形で事業化されたことに

より、地域の方々の期待がより一層高まっているものと存じております。

【松園地区自治協議会】

□ゆりこ 松園地区13町内会で構成の、松園地区自治協議会は、地域づくり計画『松園、いよいよね!』を策定、2013年(平成25年)地域協働推進委員会を立ち上げたことです。活動テーマ、将来の目指す夢をさだめ活動をすすめておられます。地域協働実施地区としてのこれらの活動に対し、行政はどのように関わっておりますか。

■西村課長 市は、地域づくり計画策定や計画に基づいた活動を進める地域協働実施地区に対して、参考となる他地区の取組などの情報提供や職員が会議等に出席し助言や要望の取次ぎなどを行う人的支援、地域づくり事業補助金を交付する財政支援を行っております。

【二者の協調は】

□ゆりこ 先述の二者、地域の停滞に対する危機感、その解決に向けた情熱、覚悟のほど、

あい通じるが、これら二者が、互換性を持ち、相乗効果をおげ、再生へのパワー倍増の手立てはないものでしょうか。その方策として、①都市整備部・都市計画推進課と②市民部・市民協働課の全庁横断的な対応が必要ではないでしょうか。

■齋藤課長 松園リボーンプロジェクト研究会は、地域の有志で構成されており、自由な発想と実行力が強みであります。今後、当研究会が企画する取組が地域全体の活動として広がっていくためには、松園地区自治協議会との連携を一層高めていく必要があるものと存じております。「市民起点のまちづくり」による取組の実現に向けて、庁内で情報を共有しながら、関係する部署と連携してまいります。

■西村課長 松園地区自治協議会と松園リボーンプロジェクト研究会との連携に向けた同協議会への支援については、両者がそれぞれの活動に協調できるような助言を行うとともに、同協議会が策定している「松園地区地域づくり計画」に同研究会の取組を取り込み拡大する可能性について、情

報提供や助言を行ってまいりたいと存じます。

【コンパクトシティ形成】



□ゆりこ 盛岡市がめざす、コンパクトシティ形成に不可欠な、松園地区の再生、あらたな発展。その形成にかかわる「盛岡市立地適正化計画」では松園地区を「地域拠点」と位置づけるとうかがいます。しかし現在の同地区は、「地域拠点」と称するには機能の不足はないでしょうか。買物をするためのショッピングセンター、商店街、飲食店、娯楽街等、不足するとの住民の声があります。いったい「地域拠点」の定義とはなにか、それを満たすために、行政、地域が講ずべき対策は、なんでしょう。

■齋藤課長 「盛岡市立地適正化計画」の「地域拠点」は、日常生活に必要な都市機能の維持、誘導とともに、地域で安心して住み続けられるようコ

ミュニティの拠点としての機能の維持を図ることとしております。松園住宅団地の再生に向けた取組においては、地域の方々が主体となつて、まちの将来像を描き、コミュニティカフェの開業や公園の新たな活用イベントなど、様々な創意工夫を凝らしたアイデアの実現に至ったところであり、こうした自立的な取組がひとつずつ実を結ぶことで、「地域拠点」としてのまちの魅力が一層高まるものと期待しているところでありますので、本市としても引き続き、しっかりと取組を支援してまいりたいと存じます

【最後に】

□ゆりこ 松園地区には、2年ほど前から、北山トンネルを経由して、週に1度、あるレッスンに通いはじめ、身じかな地域となりました。パリを模した環境で、本市のあらたな街区。時代の流動のなか、これからどのように進化をとげるのか、市民各自にかかわる重要な課題です。

市政だより、「ゆりこの議会だより」は、政務活動費で作成しています。